

弓道 いばらき

平成19年4月第29号

発行所 北相馬郡唐代町毛有279-1
茨城県 弓道連盟
理事長 久保田 清
電話 (0297-82-2738)
<http://ibakyurenkoho.hp.infoseek.co.jp/>

範士昇格おめでとうございませす

範士拝受に思う

茨城弓道連盟 副会理事 久保田 清

昭和39年4月に初めて弓道に出会い、44年間「弓道」中心の人生を歩いて来ました。寝ても起きても、二つ三つの動作行動が弓道に重ね合わせる日々、明け暮れ人生でした。その中で幾つかの思い出を振り返って見ます。

最初に出たことは、高校3年の時に県内予選を勝ち抜き学校始まって以来のスपोर्टでの全国大会「宮崎インターハイ」出場を果たしたことです。取手駅プラットフォームにブラサンド部が勢ぞろいし芳賀先生始め選手3名が地元、学校の期待を受けながら出発した

事がはつきりと脳裏に浮かびます。大会前日の練習中に矢が折れて弓手甲に刺さり腫れた手と、真夏の体育館特設射場での大汗大会は5割位の的の中で予選失格でした。大会2週間前に矢が折れてしまい、自分で小刀を使い継ぎ矢

次には思い出すことは、学校を卒業し国体の強化選手に選ばれて合宿強化の繰り返しで補欠までの4名に残り、矢吹先生より8月終わりの正選手3名の発表が、那珂湊二高の道場でありました。選手は柴田君、青山君、大村君、久保田君は来年頑張ろうにとの言葉でした。「ありがとうございました」の返事がせい一杯でした。次の年も4月

から8月まで残り、来年頑張るようになり発表された。その悔しさと挫折感が国体出場への執念となつて、現在まで弓道が続けている基礎のつになつて、後には矢吹先生にその事を話し感謝していると言つて、「そつたかたな」とニコニコしてました。

天皇皇后両陛下ご臨席での、天覧試合「全日本選手権」、高円宮殿下妃殿下ご臨席での「都城国際大会」特別演武も忘れる事の出来ない思い出になります。天皇皇后両陛下前下メーリングの位置での一番立ち、異様とも思える緊張感での強調、物見とも気持ちも視線も半分は両陛下下に注がれていました。全日本決勝での失中の苦しい思い出です。全日本選手権での最高得点者となり、優勝者が宮崎県の川名先生だった関係上、次の都城国際大会に二人

で演武の話があり招待されました。何百人も海外の弓友が集い国内選手も含めると2000人規模の大きな大会でありました。大きな体育館一杯の観客内での演武紹介も「教士セブンダウン久保田清」のアナウンスに妙に嬉しくなり気分良く行射したことを思い出します。

て行つてまいりました。サラマンカ市内のサンチエゴ・パライソ多目的ホールで行われた演武会は、例年を大きく上回る4000人を超える地元市民が集まり、観衆の武道に対する高い興味と関心として出場し、持的射礼を披露しました。

この大歓声には驚きもありましたが、返つて我々には心地よい緊張感が生れました。気持ちよく演武することが出来ました。歓声と拍手の中、行射を重ね、落が最終矢的中し演武を締めくくると、観衆のボルテージは最高潮に達し、弓道が持つ力強さと調和の美を観衆にアピール出来ました。

以上のような経験が出来る事も、茨城県弓道連盟関係各位の、44年間暖かく見守つてくれた結果と、心から感謝を持ちながら、毎日本帰っております。ただ、残念なのは全弓連、武道館等の仕事が多く、県弓連と地元弓友連との練習試合等の機会が少なくなつた事です。今後とも、体力気力の続く限り弓道を取り組んで行きたいと思っております。ご指導下さいませ。様お願い致します。



昨年5月に範士を拝受し講師、審査員と委嘱され北は北海道から南は高知県まで全国各地に出かけております。11月に日本武道館からの要請に応じてスペイン派遣日本武道団「全日本弓道連盟派遣主任」の依頼が有りました。

茨城県弓道連盟 会長

柴田 猛

皆様のご協力をいただき平成十八年度の行事を滞りなく終えることができました。ここに紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

特に3月17日から19日にかけての第25回全国高等学校選抜弓道大会については、高体連の先生方ならびに県弓連の役員の方々のご協力により成功裏のうちに終了できましたことを心から御礼申し上げます。

また、国際弓道連盟発足に伴う賛助金の募集につきましては、多数の会員の皆様から多くのご協力をいただきました。本当にありがとうございます。

平成十八年度の界外大会を振り返ってみると、週日県武道館で開催された第25回全国高等学校選抜弓道大会では、石岡商業高校女子が団体優勝、男子が技能優秀校に、個人では土浦日大高校東小節拓真君と牛久栄進高校湯原里未さんが十位に入賞する活躍がありました。開催県のプレッシャーを跳ね除けた快挙といえます。また、インテ

ーハイでは、石岡商業高校石本裕一郎くんが個人3位に、鉾田第一

高校高柳美咲さんが5位に、全日本遠征選手権では石和子選手(透)が昨年に続き二位に、関東教職員大会で大金喜代子選手(水戸桜川)が2年連続の優勝、関東中学校大会では阿見中学樋口美里さんが優勝する活躍がありました。(関東大会は優勝のみ記載)

全日本弓道選手権関東出場決定の超難関を見事突破して決勝に進出、入賞を逸すもにも拘らず憂うべき現象である。減少の要因は何か、どのように対応すればよいのか、一考を要することが大切なのではないでしょうか。各支部におかれましては会員数の確保ならびに支部発展のために更なるご努力をお願い申し上げます。

平成19年度は、ねりんピック開催の大役があります。会員の皆様のご協力をお願いします。今年も昨年同様以下の点を重視してまいりたいと思っておりますので協力をお願いします。

- 1 高段者は弓道発展に協力を。初心者へは射法射技の基本の指導
- 2 骨法に合った指導
- 3 呼吸と協働した体配
- 4 楽しい弓道
- 5 競技会・講習会への積極的参加
- 6 行事に参加することは、自己診断をする機会と会員相互の親睦を図る絶好の場所とともに弓道連盟への貢献の場でもあります。
- 7 射法射技・体配の向上を。結合い・仲合いのある稽古をして欲しい
- 8 競技力、射品・射格の向上につながります
- 9 弓道人の底辺拡大を。
- 10 弓道教室の開催
- 11 ジュニアの育成
- 12 潜在(経験者)弓道人の掘り起こし

以上いろいろと述べましたが、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

法則が持つ意味

茨城県弓道連盟 副会長

木村 喜久雄

今冬は記録的な温暖気象で降雪量が少なく、夏の濁水期には水不足にならなければ良いかと憂慮することのであります。

このような気象現象は、人的起因が全てではないにしても、近代文化を享受してきた私たち人類に責任があることは明白であります。守らなければならなかった地球環



大会では市毛道子選手(水戸)、高橋輝子選手(三和)が本戦出場権を獲得した。本戦には市毛選手、高橋選手、海老根芳江選手(透)、山村晋選手(石岡)が出場し、山村選手は二次予選を僅差で破れ決勝進出を逃すも、海老根、高橋選手が一次予選30人、二次予選15人

出、入賞を逸すもにも拘らず憂うべき現象である。減少の要因は何か、どのように対応すればよいのか、一考を要することが大切なのではないでしょうか。各支部におかれましては会員数の確保ならびに支部発展のために更なるご努力をお願い申し上げます。

平成19年度は、ねりんピック開催の大役があります。会員の皆様のご協力をお願いします。今年も昨年同様以下の点を重視してまいりたいと思っておりますので協力をお願いします。

境保全に関わる法則をないがしろにし、地球の埋蔵エネルギー源の枯渇化に拍車をかけてきた結果が「地球温暖」という警鐘の現象を生んだのであります。

私たちは、自派法門のみならず、理論に合一するあらゆる法則の遵守の重要性を考え、その範示に努めることであります。

近年における核兵器の拡散・拉致問題等をふくむ国際的紛争、国内における政争問題・近親者間の殺傷事件・犯罪の低年齢化・子供から成人層まで目にするいじめ問題などは、日ごろの暮らしに大切な礼節や信義・などの平和的法則の欠落による現象でありましょう。

さて、弓道においても同じく、私たちは、古来から伝承されている弓道修練上の法則があります。射技と共に心的な弓道法則を理解し励まなければ、弓道はスポーツ・偏重化へ変化するのではないかと危惧してなりません。

先人たちは、人格の陶冶を目ざし、弓道の躰から学ぶ心的法則を理解し、修行されたことを日常の生活に反映してこられました。そのお蔭で現世に生きる私たちの周囲は、我々に対し「社会性豊かな弓道人」として信頼を寄せたり、「弓道」が社会的に高く評価をされていく由縁であります。

即ち、弓道の修練の眼目は、射法射技などの身体的法則を学ぶと共に、礼節・信義・謙譲・克己・大和などの心的法則の修行を通して人間完成を目指すことが肝要であります。

しかし、現実をどのように見ていきますか。心的法則の理解をおき去りにし、挨拶もできない中全てをすの弓引き人を散見することはありませんか。誠にさびしい思いをすることがありませんか。

別けること、社会性豊かな弓道人となるには、礼節や信義を心し、射法射技の修練に努めることが、先人が築いた社会的信頼という弓道の財産に報いることであり、社会から得た信頼を未来へと伝承する我々弓道人の使命であります。射技と体配は両輪の如しの「射法と体的法的法則の合一」を理解し、斯道練成に精進なことを祈って止まません。

「部活動としての弓道」の在り方について考える

茨城県弓道連盟 副会長

谷島 英一

昨年度から県弓道連盟の副会長を仰せつかっています。関係者に

お聞きしたところ県高体連弓道専門部長に就任すると自動的この職に就くことでした。世間でよく言われる当て職です。私は立場多々の当て職に就かせていた

だいておりましたが、職の身は様々で仕事に密接に関係するものもありません。しかし、県弓道連盟副会長の職は、私にとつてとてもありがたい当て職でした。と言います。この職につけて長年お会いすることもなかった人と会えたり、言葉交わす機会ができたからです。人間

ある程度の年齢になると、このようないことが元気の源になります。自分と弓道の関わりを振り返りますと、大学生の時、下館真射会に入会したのがそもそも始まりですが、そのことよりも高校の教員としての採用され、弓道部顧問となつたことのほうが、関わりを深めたきっかけになつたと思っております。新採として赴任した空閑

高校で3年間副顧問、下妻第二高校で17年間顧問を勤め、通算20年間、生徒とともに教育活動として弓道部活動に携わりました。その後、教育委員会勤務になり弓道との関わりが途絶えましたが、昨年度久しぶりに学校にもどり、かつて顧問をしていたということから高体連弓道専門部長を引き受け

ることになつたと思います。このことから改めて高校教育における部活動としての弓道について考えてみました。

弓道専門部に加盟している学校数は、平成18年度男子が部が71校、女子が78校です。男女ともに加盟している学校のほうが多い現状にありますが、少なくともどちらかの部がある学校数は80校になっています。平成18年度の高校整備をみてみると、県立は現在再編整備(統合)が進められ、学校によっては同じ校地に二つの高校がある、これを異なる学校として数えていきますので112校(分校は本校に含まれる、私立高校は2校(通信制高校は除く)そして茨城高専

が加盟していますので合計135校になります。したがって、高校の59.3%に弓道部が有り、1,735名(平成18年度高体連会報第55号)の部員が日常的に活動していることになりました。このことから高校生にとって、弓道は身近に目に触れることのできるポピュラーな競技であるといえるでしょう。こうした現状を踏まえて、顧問やコーチは弓道部員にどの様に向き合い、何を教え、指導し、求めていくのが重要であると考えます。

茨城県議会開設100周年を記念し、昭和57年10月に整備された「茨城県武道館」は本県の武道の殿堂であり、その中に設けられた弓道場は規模、設備等からみて高

校生や一般弓道愛好者にとって得難い施設であるといえると思えます。試合や審査の際に染に掛ける幕には「文武不岐」の四文字が書かれています。これは徳川齊昭が藩校弘道館創立の趣旨を藤田東洲に説明して、草稿を作らせ、それを会沢正志斎、青山拙斎らが意見を述べ、最後に齊昭が裁定してできた「弘道館記」の中にある四文字で、館の教育方針として「奉神州之道 資西土之教

忠孝无二 文武不岐 学問事業 不殊其效。」と述べられて

います。高校生が部活動としての「弓道は「文武不岐」の四文字を、生徒も指導者も忘れてはならないと考えます。よく学ながらよく身の鍛錬に努める(よく稽古に励む)、「文」と「武」どちらが欠けてもバランスのとれた成長は期待できません。「右手にペン、左手に弓」これが弓道部員のモットーであり、実践しなくてはならない課題です。

また、私たちは生徒に「弓道を始めた動機は」とたずねることがよくあります。また、「弓道をや

つていてよい、よかつたと思うこ

とは、「弓道をやつて身に付けたことは」ともよく聞きます。生徒はそれなりに思い思いに答えてくれます。この二つのよくある質問は、「原因」と「結果」の質問であり、「理由」と「始め」と「終り」と「原因」と「結果」の質問は、簡単に言うところの「目的」と「結果」の質問に、もう一つの問いかけが必要であり、大切であると考えます。それは「目的」の問いかけ、質問です。具体的に「あなたは何を志すか」という問いかけ、質問です。私は、本県の弓道に取り組んでいる高校生に、年度初めの大会の部長挨拶の時、必ず「弓道とおして何を学ぶか」と問いかけています。また、私自身、弓道部の顧問として生徒と共に過ごしていた時「弓道とおして何を学ばせるのか」をいつも考えていました。この問いには人それぞれ別の考えがあると思いますし、もちろん私なりの「生徒に学ばせるもの」があります。生徒も、顧問も、そして高校生も、顧問も、この形で関係する一般の方にこの問いかけを持ち続けることが重要なことであると考えます。

また多くの弓道部員が高校を巣立っていきます。引き続き多くの生徒が弓道を持っていくことを願っています。決して多いとはいきませんが、決して多いとはいきません。しかし、このことを悲観する必要はないと考えます。何故なら、機会あるたびに多くの弓道部卒業生が、3年間で体験したことをもとに、自分の言葉で弓道について語り、弓道をおして学んだことなどを伝えていくからです。このことが弓道の普及に少なからず貢献し、弓道に興味・関心を寄せるからで、えつという可能性が生じるからです。弓道界にとつては、大きな財産になるでしょう。

茨城県弓道連盟の益々のご隆盛をご祈念するとともに、茨城県高体連弓道専門部へのご協力、ご支援をお願い申し上げます。茨城県高等学校長協会長、茨城県立下館第一高等学校校長

特集

中野慶吉範士の思い出

至誠一筋

弓道部部長 中村太

私が小学一年生の時である。笠間稲荷神社で郡内の小学校から出品した画工・工作の展覧会と同時に、菊祭りとした芸術祭が開催されて、い。またまた私の書が催されて兄弟と友達八人で胸を膨ら

ませて空間に行くこととなった。笠間駅前第一等地で道路に面して弓道場があった。小笠原流云々の高さに思わす躊躇した。またまた備蓄していた時に弓の話を聞いた。中野先生の父である私の父の先輩で同郷の出であり、同じ職の仲間であるという。先生はその御書司であり、子供の頃から弱羽でそれで弓を始めたとも聞かされた。そして「行ってみたら」と言われ、何となく気後れしたが先生の家を訪れた。

幼き頃の思いが甦つたのである。「そうだ隣町に中野の道場があったけ」しかし看板の重みと格式の高さに思わす躊躇した。またまた備蓄していた時に弓の話を聞いた。中野先生のお父さんは私の父の先輩で同郷の出であり、同じ職の仲間であるという。先生はその御書司であり、子供の頃から弱羽でそれで弓を始めたとも聞かされた。そして「行ってみたら」と言われ、何となく気後れしたが先生の家を訪れた。

変えず続行させられた。もつとも厳しかったのは、執り弓の姿勢であった。「執り弓の何たるかも知らないでただ腰を弓につけて、執り弓の姿、進退の動作を見ただけですべてがわかるものだ」「一つ基本に忠実に取り込めよ」とある日、先生が私の手を自分の下腹部にもつていき「ここを触れてみよ」と申しますので、恐る恐る触れると「もつと力を入れて押せ」と、びびりしてました。丸い石の塊が入っているのかと思うほどカチカチに凝りかたまっていた。まず「丹田を練り生気を養うを要す。下腹部を緊張しその力を保留して歩く。座すなどにも持ち得るべし。これを毎回反復すること一週間内外にして容易に丹田が凝り、気力旺盛となり心から爽快を感じるに至るべし」と説かれましたが、何しろ当時は夢中でその理解に苦しむ以外に残っていない。(それ以来行射には丹田だけ意識させられた)

やがて、的前に立つ日がきたが、一手一手が座射であった。決して立射は許されなかつた。普段立射ばかりの身には辛かった。「見ただけで普段の練習は座射か立射かわかるものだ、手抜きは許さん」と言われた。学ぶところが多く順調に推移した。体付きや身のこな

しが様になって、一通りの弓引きか。義見は私に「もらってもお荷物にはなりません、人ごとなけていても今の動作を音が教えてくれるともいう。足の運び、矢の音、勿論離れの方の濁りの音、弓の牙え、すべての音が覚えて来る。満足して音が覚えて来ない」とその良否が直ちに指摘された。これが弓の達人かと改めて尊敬の念、感激したのであった。

昭和五十五年笠間市は、中野先生の名譽市民に対する同意案件が定例議会で提出された。先生の人柄と市議、県教育委員、全日本弓道連盟会長など、先生を差し置いて外に無しとの推薦であった。使者に託した口上は次の如くであった。「辞退申し上げます。以前、使用人が道交法違反をしたので、私が同乗していた時であり、運転手の過失は主人の私の責任であります」と、よって「辞退申し上げます」と断り続けたそうである。市の上最高名誉賞の辞退に市当局も議会で戸惑いながらも「何と清廉潔白な立派な人よ」と称賛の声しきりであったという。因みに名譽欲には人に先んじてこれを受けて、己の心の傷も友人への裏切りも、隠せるものなら隠し通した

い。そう思うのが人の常であろうか。義見は私に「もらってもお荷物にはなりません、人ごとなけても」とつぶやいた。惜しいかな結果として笠間名譽市民賞の栄冠は見送りとなった。以上は義見先生の近況として話してくれたものである。「私が先生の元に入らりしていることを承知していたのと、当時義見は笠間市議会議員であつたことから知り得た善き情報であつたと私に話をしてくれた真実であります」

年ふりて、やがて忘れられ先生の立派な過去も私以外誰も知るこみこの機会に勇氣をもつて、せめて弓道に勤しむ同胞に公表し、私に味わつた感動を分かち合いたいと判断した次第です。

先生の遺徳、それは口先だけでなく身を以て、押し自在の活力を有する弓箭を使用し、静止不動の的を射貫くに有り。

その行したるや外顧る簡易なるがごときも、その包蔵する処心行の三界に亙り相関連して、機微

の間に千種万態の変化生じ、容易に正鵠を捕捉するを得ず。朝に獲て夕に失い、これを求むれば動的にして不惑、これを弓箭に求めば弓箭は無心にして無邪なり。

唯々これを己に呑み、心を正し身を正しうて、念生気を養ひ正技を練り至誠を竭して、修養に勵むの一途あるのみ。

正技とは、弓を射ずして骨を射ること最も肝要なり、心を総体の中央に置き、而して心納むこれ相合なり。

然る後胸の中筋に促し宜しく左右に分かるる如くこれを離つべし。書に曰く、鉄石相克して火の出ずる事急なり。即ち金体白包西半月の位なり。

指導者としての心構え

「中野先生が申された言葉」の抜粋（昭和四十二年十月）

「初心の指導は後継者育成として大切であり、その教育に努力している者を表彰などで、その労をねぎらつてやりたい。有る程度段位を取得した（ハ）者は、自分で進んでやる。それまで育てる事の苦勞を加味してやる必要がある」と。

射法訓

押、弓道の條は、動揺なき心身を以て、押し自在の活力を有する弓箭を使用し、静止不動の的を射貫くに有り。

その行したるや外顧る簡易なるがごときも、その包蔵する処心行の三界に亙り相関連して、機微

教練士会の紹介

「尽而不求」

教練士会副会長 堀江栄

本教練士会（十八年度会員数六十九名）は講習会並びに会員相互の研修及び親睦を中心に活動しております。

有り難いことに本県では、五人の先生の先生方がおります。

- ・ 田原 トシ 範士
- ・ 関 宗長 範士
- ・ 柴田 猛 範士
- ・ 関根 村夫 範士
- ・ 久保田 清 範士

皆様ご存知のごとく、先生方は全国そして海外へ、他県での講習会、審査会、会議等に多忙を極めておられます。その多忙の中から私達の研修の為向いて下さいます。会員は感謝と恐縮を感じておるところです。

幸い、本年も計画通り研修会も現在まで無事に経過しており三月の土浦での射会を残すのみになりました。

行事は年五回で、左記の通り。

- ・ 六月 取手グリンズスポーツセンターにて、明間会長を中心に研修（参加者 二十六名）
- ・ 七月 県外講師窪田史郎範士を



迎え県武道館にて

（一日間）七（五名）

・ 一月 柴田 猛範士 県連会長を迎え存心館にて

（参加者 二十七名）

・ 二月 県武道館にて明間会長を中心研修

（参加者 二十三名）

・ 三月 土浦市武道にて射会（参加者 三十名予定）

さて、教練士会の運営には講師の都合をみての依頼、一貫指導により受講の効果も実感出来るような目標づくり、受講日の適否などで苦勞もありませんが、「尽くして求めず」の精神でがんばっております。

明間会長のもと役員一同会員の希望を広く取り上げて、次年度も更に深く実のある訪れる教練士会に育てていく覚悟です。

次年度も十八年度と同回数で運営する予定ですが、内容は会員の意志次第です。

本会では実施日に変更がなければ個人あるいは通信連絡はしております。茨城県弓道連盟年間行事予定通りの実施を心がけています。加えて弁当の手配をしないのも恒例です。出欠の変動があるのも自弁にしております。

教練士会は県内で最高の研修の場と自負しております。後輩の多

くの弓友が一人でも多く仲間入りして下さることを期待しております。会員の期待に応えられる教練士会実り多く充実感に満ちた教練士会の運営をモットーに役員一丸となつて努力いたします。

五段会とは

「尽而不求」

大賀 軍士男

約80名を数える五段会は19年2月11日 五段会中野杯争奪大会を皮切りに19年度が始まり、今年度は4回の講習会を計画いたしました。東海村立弓道場、水戸市(存心館弓道場)、土浦市立武道館弓道場、取手市立グリーンスポーツセンター弓道場です。専任講師久保田清・助川末廣)の指導の下、中身の濃い講習会が毎回実施されていきます。

五段位として弓を引くとき、持ちの射札が滞りなく実施でき、周りの射札が流れていけるように、又一番の射手として二番以降を引つ張っていけるように成る事を目標と感じています。

持ちの射札 控えから道場に入場することは俗世界より聖域に足を進めることであり、その心構えを意識して入場する。入場動作に

おける各注意点を点検し、漏れのないように努めます。

執弓の姿勢、弓矢を持った姿勢だけではなく着物の着付け、特に家紋所を整え、生気体で目づかいに注意する。

歩き方、吸う息吐く息にあわせてまた回り方は省略しないで正しく実施する。

定めの座の態度、先導者は入場時には五番、脇正面に向きを変えてからは一番になる(私の後に四人いる事に配慮する)、姿勢は垂直の姿勢を変えずに座り且つ立つ。本座、座して膝頭が5人とも揃う、膝を生かす、「拱のタイミング」

形三息の掛、肌脱ぎ・襟捌き、息が動作し目が追う。射位動作、些細な動作にこそ注意を払い、一息一力、順立動作、退く足捌き、立つタイミング、立ち方、射手と動作を合わせて行動する。

退場動作、先導者に揃うよう意識を払う、退場口を退出しても五歩は執弓を維持する。

五段位に成るまでは昇段審査の要領が十分理解され実行することが出来るようになっていければ良いかとも思われます。また錬士六段ともなれば、一つの射札が正しく実行されて、見学者の眼を引き付けどこかに手本になる様を射きや体が要求されると思います。

明正会の活動

150回記念大会実施

理事長 堀江 栄



昭和55年に中野慶吉範士・関宗長範士の指導を受けて、60歳以上の弓友の研修の場として本会が誕生した。

年月を重ね平成18年10月13日、150回の明正会が記念大会として興立武道館で実施することができた。

引き籠りがちになりやすい年齢だが、県弓連の行事に出発参加して、更に弓道的基础基本に立ち帰ること。切磋琢磨し弓を楽しむと射会を続けてきた。

今回の記念大会は我々にとつては大きな感動であった。

中山三千夫会長の挨拶・柴田猛馬弓連会長・の祝喜久雄、関宗長の祝辞を頂き、中山会長の矢渡(介) 細川久子・桜井和子、大会の矢が放たれた。

参加者全員の一手一射の後、七つのグループに分かれ、四つ矢行射や、錬士は持ちの射札、範士と教士は一つの射札を披露した。

厳肅な中にも和氣藹々と150回の記念の射会にふさわしく、心に残る大会となった。

明正会員の中で最高齢(92歳)の田原トシ範士はこの歴史や多くが多いだけに感無量の一日ではなかつたかと推察する。

終了後は「がんこ屋」で日が暮れるまで相互の交流と親睦が深められたことは申すまでもありません。

女子指導者による講習会

女子部部长 天 冨子

本年度は会員の希望により、県外から女子の先生を呼んでほしいと云う声がありました。私も日頃感じていた事で、女性らしい凛然とした中に、優雅さ、つつしみ深さ、しとやかさ等を指導できない自分にもどかしさを感じてまいしたので、丁度よい時と、山梨県の秋山照美範士をお願ひした所、気持ちよく御承諾いただき、平成十八年十月二十、二十一日と二日間行われました。

女子としての体配を基本から、初心にかえって行い、呼吸と動作を合せる、しかも、五人組の流れを、そろえることは、むずかしいらしく、何遍かくりかえし行なっ



講師 秋山照美範士

ているうちにそれらしくなってきました。
人数が多いため二班に分け、四

県北地区だより

真弓賞弓道大会

常陸太田市支部 立川 久泰
真弓賞弓道大会は、常陸太田市で毎年4月29日に開催され、今年で33回目となります。

常陸太田は戦前より弓が盛んな地であり、特に旧制太田中学(現太田一高)弓道部からは、数多くの政治家・企業人・教育関係者を排出しています。中野慶吉範士(故人)日本弓道連盟前会長 県議会議

段までは、一次審査の要領で行い五段、錬士、教士まで、持的射礼、一つの射礼をきめ細かく、御指導をいただき、このまま、毎日の練習が出来たら理想通りに変わって行くことでしょう。翌日先生のお帰りになる時間一杯まで、もう一本、もう一本と、熱心に行った。それぞれに間違ひはあったが、正しく憶えたことです。いつものパターンでなく違った方向から行うことも、目新しくなってフアイトがわくようです。

段までは、一次審査の要領をつくり活動していました。この様な伝統を後継者に伝えようとして、真弓賞弓道大会を始め、大宮高、大宮工業、水戸二高、日立二高等招待し参加していましたが、現在は地元常陸太田市の太田一高・太田三高・佐竹高・里美高のみの大会となり、秋の常陸太田市民弓道大会とあわせ、春の大会に位置付けられています。大会は参加者全員でつくるといって、生徒も大会の準備、運営、記録、片付けまで行なう方針を取り、ただ技術を競うだけでなく試合を通して一般参加者との交流を深めていく大会にしています。競技は1チーム3人ひとり8射

たい気持で一杯です。

員 県教育委員長 関 宗長範士
県議員 茨城県弓道連盟前会長 横山亮次 教士(日立化成(株)元会長 茨城県弓道連盟相談役) 武藤 彬氏(故人県議会議員) 多賀野耕造氏(故人県教育委員長) 大村憲一範士(広島県弓道連盟顧問(元会長)等です。

戦後、岡部秀治氏(元常陸太田市収入役)が中心となり地元弓道人が、旧制太田中学弓道部顧問の蘇原二郎先生の元で真弓会(太田には真弓山という山があります)



の計24本で争われ、男女とも団体3位、個人5位までの入賞となつていますが、一射必中の理念に基づき、また蘇原先生の名前を残すため射詰賞を設けて蘇原賞として大会最高の賞と位置付けています。射詰賞男女1名づつで、概ねは上位入賞者が優勝しますが時には下位の方からも優勝する者が出たりします。数本で決する年もありますが、数人で十数本戦うこともあり見ごたえがあります。

大会参加者の中で常陸太田に帰ってきて弓道続けている人は多くないのですが、大学へ進学したり他所に就職して弓を続けている人は多いと聞いています。中には、「真弓賞大会で入賞して本当に入れなかった。その思いが今も弓道を続けている」と話してくれる人もいます。当時この大会を始めた時に中心になって盛り上げてくれた方々の多くが鬼籍に入っていますが、世代を越えて先達者の志を伝えられるよう継続出来ればと思っています。

日立地区だより

会瀬道場について

日製日立支部 新山 晃一
私は、日立製作所の大みか地区に勤務し、今年の四月で社会人三

年目となり、弓道部は七年目です。現在、日製日立支部(以下、日立)に所属し、会瀬道場で支部長である竹之内正宏錬士五段の指導を受けています。

ここで、私が練習に使用している会瀬道場について紹介します。会瀬道場は、会瀬グラウンドに隣接する武道場内にあり、剣道・柔道場と共に日立製作所の管理の下、活用されてきました。出来て十数年程度とまだ新しい道場で、広さは通常五人立ちが出来る程度です。日立市内にある他の道場、斯道館や久慈道場に比べて歴史が浅いながらも、射位の前後幅が比較的広いので、数人が同時に立ち入ることが出来る道場です。この道場の特徴としては、二つの支部が共同で使用しているという点です。一つは、私が所属する日製日立、そしてもう一つは、日立電線支部(以下、電線)です。電線には所有する道場が無いために、会瀬道場で共に練習を行なっています。日製日立は部員数二〇名弱、電線は十名ほどで、他にも近隣から何名か来て、一緒に練習しています。一時は、遠く日立北の高校生も通っており、電線の方から弓道の指導を受けていました。年齢層とし

ては、下は中学生から上は八〇歳を越える高齢者の方まで様々です。五〇代以上の方が多いため、平均年齢は若干高めです。

普段私は、比較的時間にゆとりのある土曜と日曜の日に会瀬道場へ練習に行っています。そのために練習されている方には、なかなかお会いすることがありません。うになりまして。人それぞれの考え、休日の昼間に練習を合わせて来た同期連と一緒には練習を、時には先生からの厳しい指導を受け、弓道の射技向上に励んでいます。年末年始には、会瀬道場を挙げて、射会や懇親会を開催し、電線の方々と普段お会いすることの出来ない方たちと交流を深めています。

私は、会社へ入社する前から知り合いのツッテで会瀬道場にお世話になっており、現在も道場の皆さんには大変お世話なっています。私が日立に入社する前までは、弓道部への入部者はほとんどいませんでした。しかし、新入社社と同様に、二年連続、新入社員からの入部者があり、一気に支部の平均年齢が若くなりました。今までは、周りに年配の方が多く、いろいろと気を使って頂いていたのですが、おかげさまで、年齢の近い人たちと一緒に練習し、互いに指導しあ

うことが出来てうれしかったです。さらに、今までは日立事業所の部員と電線の方はばかりがどうしても目立っていたのが、最近では日立関連の方の出入りも増え、会瀬道場は賑やかになってきました。同じ支部だけではなく、他の様々な人たちが集まるこの会瀬道場で、私は多くのことを学び、考えるようになりまして。人それぞれの考え、休日の昼間に練習を合わせて来た同期連と一緒には練習を、これは先生からの厳しい指導を受け、弓道の射技向上に励んでいます。年末年始には、会瀬道場を挙げて、射会や懇親会を開催し、電線の方々と普段お会いすることの出来ない方たちと交流を深めています。

水戸地区だより

「弓道の神髄と技術」

茨城町支部 高橋 義之
（講談社インターナショナル出版）

本の紹介をする。本は日置流雪花派小沼範士九段の教えを、範士のもとで弓を学んだアメリカ人（デプロスベロ夫妻、夫君は現在アメリカ弓道連盟の会長）がまとめたものである。

欧米人は論理的な説明を好み曖昧性をできるだけ排除しようとする。著者自身も初め言葉より直感を重んじる日本の伝統的指導法に戸惑う。しかし、條神の中で実践と直感の重要性を体得する。この西洋の言葉による真理の捉え方と

日本の直感的非論理的な捉え方が融合してこの本が生まれた。本の内容は、「弓道とは何か」「歴史と弓道の発展」「弓道の精神」「射場」「器具・装身具」「射法八節」「技と修練」「問題解決法」「師弟問答」と、弓道のあらゆる面に及ぶ。珍しい絵画や小沼範士の凛とした射影、射射、体配等の図解が沢山あり視覚的にも楽しいが、何よりその内容が美しい。弓道の精神と魅力、その技術と奥義が美しい英語で的確に述べられている。

第一章 弓道や茶道など日本人の心、歴史の変遷と弓の有り様、弓の奥深さを述べ、畢竟弓の目的は自己探求である、と言う。それを受け、人間の人間たるゆえんは真・善・美の実現にあり、その結果科学や哲学や宗教や芸術が生まれた、と展開させ、次いで弓と真・善・美の話に収束させる。

「真」は、的中に現れる「能射必中」と「正射必中」の区別。「到的」「貫的」「在的」の区別が語られる。理想的的「在的」。心・身・弓が一体となり気が体（三）から溢れ、離れた前に矢が的に届いている状態を言う。弦音が示す「真」では弓道の師を求めて諸国を旅する者が堀の向こうから聞こえた弦音を聞いて弟子入りする話がある。弦音はその

一瞬において射の真実を示すのだ。「湧え」の示す「真」では、響えがよい。水泳の飛び込みで優秀なダイバーほど水しぶきが上からない。射も同じ。

「善」では、怒りなど陰性の気が射を曇らせる。普段の練習を本番と思い一射に礼儀と真心を、それが平常心となり特別な場でも迷いや不安などから解放される。失敗しても言い訳をせず、自分に勝つ者を恨まず、欠点を自分に求め、自分を向上させることになる。と述べている。

「美」はまず弓と弓道衣の美しさにある。次いで「真」と「善」の調和の美しさは格別である。善なる気持ちで真摯に取り組めば日常生活でも行動に優雅さと威厳と穏やかさが備わる。最後に、弓道に於ける神道と神の影響を概説したあと、弓道の在り方で締めくくる。弓は何本引くうと、常に各一本は初めての射である。完全に見えても改善の余地がある。満足してはならない。弓道は己を知り成長するためのもので、身体は衰えようとも精神は常に前進する。弓道に終わりは無い。

術の発達などを述べる。源為朝の話や三十三間堂の通し矢に關する星野勘左衛門と和佐大八朗の話などが彩りを添えている。

第三章 「弓道の精神」が語られる。射は自分的人格を磨くためのもので技に囚われない善は「道」を見失う。内面の大切さを述べ、正しい射の実現には気を充実に、常に全体に調和させること。それには正しい呼吸、息合、調和のとれた動きなど厳しい克己と心の安定が必要となる。一カ所に気を集中させるとそこにこわばりが生じ、他のところに隙ができる。動作は無心に、無心とは動作と思考が分離せず一体で、夾雑物がない。これらは言葉で理解するのでなく体験をとおして理解しなければならぬ。ここで「木蘭」の話が挿入されるが、内面の重要性のイメージ化である。

第四章 射場での心構え。自己探求の場としての射場に入るときには心を澄まさねばならない。礼儀と調和と互いを敬う気持ちがあればならない。

第五章 弓具の種類や取り扱い、管理の仕方など、丁寧な説明がある。

第六、七章 射技、体配の解説と問題の解決法。基本から高度な技術までいねいに説明、随所にありがたい発見がある。熟読玩味の要あり。

最後の二師弟問答 この本の主題、範士の弓道観、人生観を範士自身の言葉で確認することになる。この本は外国人向けの本ではあるが、私た日本人にとっても裨益するところが大きい。日本語訳のないことが惜しまれる。

本の原題は Kyudo: The Essence and Practice of Japanese Archery

石岡地区だより

毎日ゆったりと弓を引け

石岡支部 稲葉 健次郎

日本古来の弓道は、若者男女を問わず共に修練し、楽しむことのできる武道であることは皆様実感しておられること存じます。大貫支部長のもと、若いメンバ

部もその例にもれず、定年後に弓道教室を通じて始められる方が多い状況です。自然と弓道会の高齢化に繋がっていくのですが、天候、曜日に拘わらず毎日弓道場で顔を合わせ、道場の掃除をして、矢道の草を抜き、樹木の剪定をして、そして共に弓を引いて、お茶を飲み談話する。まさに生活の一部(射即生活)となっています。

もちろんその中で、持参した古書の紹介、故岡崎範士の写真や教えなどを持ち寄っての射技の研究も欠かすことはありません。



このような環境の中、石岡弓道会では従来から月例会、三十射会その他、会員に対する古希射会(七十歳)、傘寿射会(八十歳)、叙祝射会等を行っています。平成十八年度は、十月に一五〇回記念大会を行った明正会の会長である中山三千夫五段、櫻井和子五段のそれぞれの祝賀射会を行いました。十九年度は芹澤雄二元会長の傘寿射会を予定しています。後継者は次に揃っていますので、これからも毎年行うことができます。

これらに今後は更に米寿、卒寿射会等が開かれていくことになりま

すので、昇段・昇格祝いととは別の意味で弓道会員の喜びとなります。

現在の石岡弓道会は昭和四十五年七月一日即芹澤雄二元会、故武藤生三氏等が発起人となり、石岡市弓道連盟が結成され、以来、芹澤雄二元会が三十五年以上を会長として岡崎範士の指導のもと、石岡の弓道会を牽引してきました。平成十

八年度の役員改選で勇退され、毎年八月に開催される五十射会勝杯が寄贈されました。これは「深杯」として永く記念していくことになりました。石岡弓道会ではこれで五月に行われている「岡崎杯」に続き2個目の記念カップとなりました。

鹿行地区だより

波崎支部長 小沼 勝則

地区だよりとしては、波崎支部の紹介をさせていただきます。

活動拠点は、波崎体育館弓道場です。場所としては茨城県の最南端に位置しており、東経140度50分12秒、北緯35度44分43秒を示しておそらく関東最東端の道場だと思われま

す。利根川が太平洋に注ぐ気候温暖な、まさに冬暖かく夏涼しい所で、一年を通じて、高校、大学のスポーツ合宿が盛んで、特にサッカークラブは合宿の聖地と呼ばれています。波崎支部と言いましても、平成17年8月1日をもち、神栖町との合併で神栖市波崎支部として活動しています。支部設立はまだ新

度でありましたが、三菱化学支部への移動により現在10名前後で推移しています。元々は神栖支部からの独立により誕生しました。

現在の活動状況は、週一回の練習と個人の集中練習です。内容的には集まった人で団体を組み総的中を競っています。その甲斐もあり最近支部対抗で上位入賞もありました。只、的中だけでなく選手権大会で優秀賞も取れる選手が出て来てくれたことは大変嬉しい事です。

その他、支部員の皆様には体育協会のボランティアなどで、回数この協力をお願いしております。これも活動の一貫と考えています。

合併までは年一回弓道大会を実施してまいりました。延べ18回行い、主に鹿行地区の皆様に参加頂きましてが現在は休止中です。

波崎弓道場は、千葉県の方の利用が多かったようです。約30年以上が経過し何回かの改修を経ましたが、棟続きの建物が老朽化しているほど弓道場としての取り壊しが決まっています。今までも何回かの移転の話もありましたが、不運にもバブル崩壊、県のレクリエーション事業見直しなどで実現しませんでした。しかし今回、現在地で建て替

しかし今回、現在地での建て替えと言う話をいただきました。只、完成が何時なのか、どの位の規模なのかは不明で、今までの要望が取り入れられるか不安もあります。幸いなことに部員ほとんどが神栖市弓道連盟に加盟しており神栖弓道の使用が出来て練習参加可能になっております。

この原稿を書き終える頃は取り壊しが開始されていくでしょう。終りに施行地区の大会を紹介したいと思います。4月29日鹿島神宮大会、5月神栖市弓道大会、6月瀬来あやめ弓道大会、10月鉾田市弓道大会、11月行方市弓道大会、鹿島市弓道大会などがあります。参考まで。

土浦地区だより

文部科学大臣賞受賞に寄せて

阿見支部長 中村 太

平成十八年度、生涯スポーツ優良団体として、阿見町体育協会弓道部(部長中村太)、文部科学大臣から表彰の栄誉に輝きました。弓道部は、昭和四十三年度に発足以来、「継続は力なり」をモットーに部員が一丸となって、ひたすら前進が成果を生み、今回の栄光を手にしたと無かつた時に、

満足な体育館とて無かつた時に、



弓道場建設には少なからず反発を買った。しかし町長の設立目的は、中学生の健全なる心身の育成にあるとの英断で、当時としては立派な道場が建設された。しかし学校側が管理、生徒指導以外は使用が認められず、満足な練習は出来なかった。再び要望したがパブル崩壊による町の財政が困難との理由で、既設の中学校の道場を改装して、平成九年に六人立の道場に生まれ変わった。早速、町教育委員会主催の弓道教室を開催。毎年一回を目安に実施。累計で三十名回の受講生が修了。ここに有望な同

志が誕生した。その人達を中心となり、現在毎週月水金を楽しく練習に励んでいる。一日も早く高段者が育ち、良き指導者として道場を継続し、欲しいと期待している。強力な後援者がいないといっしかな道場は衰退して行くのが時の流れである。惜しまれつつ閉鎖した道場、そんな事例をいやと言う程現れて来ているからだ。又、表彰推薦に認められた一つに、学校の道場を我々と協同して使用した点にある。それは中学校に対する指導にもあった。その結果として常

に上位入賞を果し本年度は関東大会に出場、その結果個人優勝をした。この様な和の交流が町当局に認められるものとなったとも思われる。今後はこの賞に恥じない様努力、研鑽して行きたい。

しかるに、ようやく様になって来たとき感じ、これか라고言う時機が多。挫折してしまう弓者が多い。どこに原因があるのかと、目標を設定し、「易しく、正しく、楽しく」を主眼として閉止めの一助になればと、努力して

いる。思うに、途中挫折した者も一度は弓にあこがれ、体験した人達である。理解度は素人より強く決して無駄ではなかったと思考す。何時の日か又弓の良さを思い出し、再び弓を執る日が来ると信じ、より多くの練習を怠りて行きた。芽が出て、大きく育つことを望みながら。

県西地区だより

道場紹介

下館支部 飯泉 清

私たち下館支部の弓道場は3階建てのビルの屋上にあります。道場からの見晴らしは良く射場からは筑波山が良く見えます。しかも、謎の円盤も?・・実は使い古しのCDが吊るしてあるんです。何がと言うと、道場に誰も居ない時などは或る生き物が我が物顔に矢道や道場の屋根木などに屯し糞をするのです。この糞公害を少しでも防ごうとして努力して要る訳です。或る生き物と言うのは鳩のことです。土日や休日には鳩の道場にいくと必ず鳩が数羽居るんです。人を怖がらず我が物顔で矢道や安土の上などにいるものですか。誤って鳩に矢が当たらないかと心配する部員もいるくらいです。道場は少々狭いですが一応五人立ちです。会員の練習日と言うのは特にありません。練習したい時に隣の管理公社で道場の鍵を借りてきて練習をします。勿論、誰かが先に来ている道場が開いているのが判れば、そのまま屋上に上がり、練習すれば良いのです。管理公社が休みの時以外は夜九時まで自由に練習できるんです。しかし、誰でも利用できるわけではありませぬ。筑西市利用の条件としては真射会(筑西市弓道の名称)会員であり初段以上の有段者でなければなりません。例外としては毎年行っている弓道教室です。

下館支部では毎年、弓道教室を開催しています。年度により入門からパラツキがありますが平均すると8名前後の生徒が応募してきます。教室は10週25回で最初は弓素の取り扱いは方から始まり徒手・素引き・的前5メートル・10メートル・射位と生徒の進捗状況を見ながら行きます。教室の生徒は初段取得するまでは指導者が許可しなければいけない前行程はできません。教室の期間は射法八節だけではありません。無く体配も必須科目であり、生徒たちが汗だくになって立ったり座ったり、呼吸に合わせて歩いたり一生懸命やっている姿は同じ弓道教室出身者として懐かしく思えます。

県南地区だより

県南地区の三大行事

取手支部 鳥居士郎

会では年間行事として弓道教室以外にも年間12回の弓道試合を行っていますが、内4回は試合と言よりも懇親会に近いものがあります。初夏には試合後にパーベキューを楽しみ、十五夜の頃に行う月見射会、そして年末は大掃除と納射会、夜は忘年会、年始めの2日は射初め射会、これらの行事は試合と言よりも飲食会が中心になっています。番外として大晦日へ行き、会員が持寄ったおでんやワインなどを戴き、0時前に除夜の鐘を聞きながら一手射行い、新年の花火を見ながら一手射を行うのです。皆中すると今年はご利用があるかな?などと勝手に思いつつ、紋付羽織を着て近くの羽黒神社に詣で掲げたの黄粉餅や餡子餅を戴き、幸せな気分で帰ります。

県南の各支部が協力して取り組んでいるものに、①県南弓道大会、②追儺(ついな)射会、③合同研修会の三つがある。

①県南弓道大会 本年度は別掲の記事のように、とくに高校生が多めの参加があった。決勝の射話では一般の部の決勝が霞むほどに盛り上がり、催者としてもとても嬉しく思った次第である。

②追儺射会 箭分会にちなみ、県南各弓士の安寧を祈り、互いの親睦を深める目的で行う。一部は的中を競う射込み、二部は手製の的中と変わりのによる得点競技である。本年度は四九名の参加があり、成績は次の通り。(敬称略)

- 〔射込個人〕一位 和田(電ヶ崎) 二位 君島(取手) 三位 矢野(藤代)
- 〔射込団体〕位 君島(取手) 速藤(藤代) 沖田(平久) チーム、二位 湯浅(平久) 大峰(取手) 和田(電ヶ崎) チーム、三位 桜井(電ヶ崎) 菊池(藤代) 渋谷(平久) チーム。
- 〔大の〕一位 桜井(電ヶ崎) 菊池(藤代) 沖田(平久) チーム、二位 藤原(平久) 関口(電ヶ崎) 大田(取手)



チーム、三位 黒飛(電ヶ崎) 福高(平久) チーム。五位、十位、プービーの飛び賞があり、泣いたチームあり突ったチームありであったが、親睦の目的は十分に達成された。

③合同研修集会 県南の高校生を講師として行うものと、他地区より講師をお願いして行うものがある。前者はすでに終了。後者は、本年度も幸いに柴田範士をお願いすることができ、一同おおいに心待ちにしているところである。

専門部

指導部だより

指導部長 庄司 幸夫

会員の皆様におかれましては、日々の稽古にご精進のことと拝察いたします。

指導部主催の各講習会が滞りなく終了できましたこと、ご指導にあたっていただいた講師の先生方をはじめ、受講者各位の協力のおかげと厚くお礼申し上げます。

昨年度の講習会は、県内外の大会・審査に通用する体配、射技のレベルアップを目標に掲げて開催して参りました。結果の表れとしては手前味噌ですが、昨年度の地連審査以上の昇段・昇格者は、五段30名、六段5名、錬士10名と、中堅どころが大いに躍進いたしました。

また、久保田清先生が弓道修練者の名譽且つ最高位である範士号を授与され、全弓連100名の範士のうち5名を交城が占めるに至ったことなど、県連としての最高のよろこびであり、素晴らしい一年であったと思えます。

一方で、弓連の次代を担う七段、八段及び教士の合格者が今一步のところで退いた事は、称号者の一層の奮起が望まれる一年でもありました。

さて、平成19年度の講習会は、概略以下の内容を進めて参ります。

- ・三段・四段講習会、五段講習会、称号者講習会、の3区分、各2回を予定します。
- ・(他に)支部指導者講習会、学校指導者講習会を各一回
- ・受講者の服装は、いずれも私服着用と致します。
- ・体配、射礼の基本は事前に各支部で修練頂き、講習会はその確認の場として望みを頂ければ幸いです。

指導部主催の講習会が「現代スポーツとしての楽しみ」ばかりで無く、受講者各位の「苦行道」への奮起を促し、一ランク上の射品・射格に繋がりますよう、いろいろ

と工夫してゆきたいと思えます。普段から基本に徹した正しい射心掛け、お互い切磋琢磨して頑張ろうではありませんか。

詳細日程・講習内容・申し込み等については、各支部長宛に通知致しましたので、より多くのご参加をお待ち申し上げます。

*「現代スポーツとしての楽しみ」、「苦行道」は教本45ページを参照下さい。

審査部だより

審査部長 明間 勲

平成18年度、県内地方審査も無事終了することが出来ました。審査委員、役員の方々のご協力有難うございました。紙面をかりお礼を申し上げます。

さて今年度の中学生の審査を見てみますと、9名の昇格がありまなく、参段は各学校の指導者のご協力があつたものと考えられます。今後更宜しくご指導お願いいたします。

一般審査では、連合県内外とも五段昇段がたたくさん合格されましたが、中央審査も錬士昇格、六段昇段された各先生おめでとうございます。さらなる昇段昇格を期待するところです。昨年、今年度と

今年も柴田会長ご指導の下、競技の充実をはかる事を願い、森、

競技部だより

競技部長 須田勝

も教士以上が、合格されなかったのが残念であります。

		平成18年度 審査合格表					平成19年1月15日 審査部 明開部	
種別		準指定	初段	二段	三段	四段	五段	計
5/14	中高	受審者	312	94	21			427
	合格	2級47	173	91	3			400
	%	1級86	55	97	14			94
5/28	一般	受審者	19	26	48	30		123
	合格	1級1	18	26	19	12		76
	%	2級5	95	100	40	40		62
7/16	中高	受審者	262	76	15			353
	合格	2級26	150	65	5			307
	%	1級56	57	86	33			87
9/13	一般	受審者	9	2	25	26		62
	合格	9	9	2	9	12		32
	%	100	100	36	46			52
9/17	中高	受審者	136	9				147
	合格	2級10	42	5	0			131
	%	1級74	31	56	0			89
10/8	混合	受審者					129	129
	合格						35	35
	%						27	27
11/5	一般	受審者	15	18	52	35		120
	合格	14	17	15	14			61
	%	1級1	93	94	29	40		51
11/23	中高無指定	受審者	331					331
	合格	2級33	52					331
	%	1級246	16					100
12/17	中高指以上	受審者	117	174	21			312
	合格	86	165	1				269
	%	1級17	74	95	5			86

大貫副部長とご相談しながら努力を尽しますが、精一杯です所存でございませう。

競技部では昨年一部部員を担当に付け大会を進めて参りました。特に看的な人数を減しましたので皆様には矢取りを必ず実行され viewing の方からお願い等があった時は聞いてお手伝いをお願い致します。



今年も、施設部、強化部に協力を得、県弓連主催の大会に連発の練習が行えるよう準備(雨天中止)にして参ります。連発は、遠的

矢、近的矢どちらでも結構です。遠的は、弓道の基本ですから楽しみにながら楽しんで下さい。

選手強化部だより

強化部長 川瀬政人



の成績を持って次年度の強化選手を選考する方法に改められた。しかし、当初は何とか成り立っていたが時の流れに伴い、基準を満たす者が減少するとともに、的等の基準が細羅されていないため

施設部だより

広報部だより

施設部長 関口 宇一郎

「弓道誌」連絡員 萩野 綾子

各種大会では当番地区の方々のご協力により、道場内をはじめのご協力等がおこなわれ、大大会が運営されております。

施設の係りとしては、特に問題として取り上げてはいませんが、規定ではのぞを疎に付ける時、的の垂直面に対する傾斜角が五度(競技規則第三条)と定めてあるが実際に付けた様子では少し傾斜角が大きいようである。

☆ホームページについて
全弓連発行の月刊誌「弓道」で十八年度途中より「各地の便り」が簡素化され、現在大会結果のみの掲載が主体となつています。従つて広報部として、県内各地の行事・大会・審査結果等につきましては、茨弓連ホームページ上でスピーディーに、又内容がよき一層の充実を図つていきたいと考えています。各地で開催されている大会の結果、コメント等は、広報部地区担当までお寄せください。

全日本連的選手権大会
準優勝おめでとうござります

大会を振り返つて

ひたちねが藩支部 石井 和子

昨年の第五十七回全日本連的選手権大会において、第二位の成績をおさめることが出来ました。年度始めより思うような調整をすることが出来ず、さらに前回大会においても第二位に入賞していたため、いつのまにか今大会を意識し

ていました。

しかし、どんな大会も常に初心で望もうと決めているので、今回三回目の夫婦出場に案外安心していたのかも知れません。まわりから見れば、「余裕」「自信」と思われたと思いますが、そのように見えたのであれば、これまでの練習や数々の大会での経験が落ち

☆中野慶吉範士特集についてのお願い

昨年引き続きまして、中野範士の特集を組みたいと考えており、皆様のご協力をお願いいたします。日本弓道連盟の歴史に連じた光を放つ茨城県が誇る先生です。ぜひとも先生に接した多くの方々からの、思い出、エピソード、忘れられない言葉など、お寄せいただきたいと思います。又貴重なものだと思いますが、お手持りの写真がありましたらお貸し願いたく併せてお願いいたします。

今回(第二十九号)弓道いばらき一発行にあたり各方面の皆様から原稿を頂き感謝いたします。

着かせたのだと思います。そして、いままで技術的、精神的に根気強く指導して下さった柴田先生や、団体等で強化部や選手など、多方面の方々を支えられ、家族の理解と協力によって成し得たものと確信しています。

大会当日は、開会と同時に参加選手の気迫と集中力に包まれ、それぞれの競技に入りました。今回は主人とゼッケンが近かつたこともあり、お互いに緊張練習ができ、最終確認も出来ました。雨々と競技は進み、自分の立ち

順となり、入場前に同じ立ちの方々と呼られ、思いがけない順位に驚きと挨拶を交わす二、三気位に気持ちがとうれしさが込み上げてきました。切り替わりました。射場や観客席の静かな雰囲気がとても心地よく感じ、あと数分後に出る結果は頭にはありませんでした。

さらに、それぞれの審判員席に柴田先生や久保田先生を見た時、いつもなら緊張してしまうのに、この時はとても安心し、落ち着くことが出来ました。これもあな意味、集中なのでしょうか。

大会中は、速報で途中結果はわかりませんが、二日間はずっと過ごしたいと思いたいと思いたいがら、一本一本を大切に行なうつもりです。

そのすべてが競技が終了し、決勝進出者同士の充実感と安堵感を感じながら、結果の発表を待ちました。程なく発表があり、二番めに自分のゼッケンが



全国高等学校弓道選抜大会

石岡商業 女子団体優勝 男子団体技能優秀 おめでとうございます

〈女子団体〉

本多真佑美 優勝が決まった瞬間、まだその事が信じられませんでした。弓を引いている時には手足が震え自分自身に負けないう事に無我夢中で周りのことを気にする余裕

もありませんでした。しかし、大きな拍手の音に本当に私達は優勝したんだという実感がわいてきました。それと同時に、ご指導して下さった、柴田先生、斎藤先生、大川先生、本橋先生、OBの先輩方にも感謝の気持ちでいっぱいになりました。

先生方や先輩方がいなかったら、絶対に優勝することは出来ませんでした。本当にありがとうございました。私達はこのままではありません。技術面でも精神面でも、もっととっと上を目指していきます。

中村真由美 今回の大회는緊張の中、ご指導していただいた柴田先生・斎藤先生・本橋先生・大川先生・先輩方、応援してくれた仲間や家族に感謝しながら、1本1本大切に引きま

した。今大会で、優勝することが出来ましたが、これに満足せず、

これからの感謝の気持ちを忘れずに精進していきます。

中根泰津美 トーナメントが進むにつれ、緊張が高まっていききました。でも、その緊張の中で、私は今まで先生方に教えていただいた事をやりきる事に集中し、先輩方、支えくれた人達への感謝の気持ちをこめて弓を引きました。そうしたら、自然に結果がついてきてくれたのです。今、トーナメントを思い出すと、緊張の中の楽しさがあったり気持ち良かったりです。こんな経験が出来たのも、先生方・先輩方、支えてくれた人達のおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

保田友美 今回、私はメンパチエッジということで控え選手になりました。その事は自分自身にとって、とても悔しい事でしたが、仲間達には頑張ってもらいたという想いをバネに選手をサポートしました。トーナメントの決勝戦、いつも隣にいる仲間達が全国の舞台上で戦っている姿を見て、自分も負けていけないと思えました。次は、サポートではなく、選手として自分の足で、全国の舞台上に立ちたいです。

藤田和紀 とてもないプレッシャーの中で弓を引いたこの大会、

〈男子団体〉



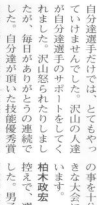
多くの事が出来ました。技能優秀をとれたのも仲間達のおかげです。これからは、この経験をバネに更に精進していきたいと思えます。



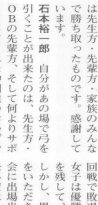
中澤源太 今まで先生方、先輩方に教えていただいた事をやり切る。先輩方、先輩方に感謝し、その方々の為に引かなければと考えながら試合に挑んだのですが、最後には自分を見失ってしまい、不様な試合をしてしまった事が悔しいです。今回



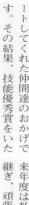
自分達選手だけでは、とてもやっていけないでして、沢山の人が自分達選手のサポートをしてくれました。沢山怒られたりしましたが、毎日があるという連続でした。自分達が頂いた技能優秀賞は先生方、先輩方、家族のみんなで勝ち取ったものです。感謝しています。



石本裕一郎 自分があの場で弓を引くことが出来たのは、先生方、OBの先輩方、そして何よりサポートしてくれた仲間達のおかげです。その結果、技能優秀賞をいただきました。しかし、男子も技能優秀という賞をいただき、来年度の全国選抜大会に出場出来るという事なので、来年度は私達が先輩達の後を引き継ぎ、頑張りたいと思います。



柏木政宏 私は全国選抜大会では控えて、選手をサポートしていましたが、男子は決勝トーナメント2回戦で敗退してしまいました。女子は優勝という素晴らしい成績を残して、すごいと思いました。



しかし、男子も技能優秀という賞をいただき、来年度の全国選抜大会に出場出来るという事なので、来年度は私達が先輩達の後を引き継ぎ、頑張りたいと思います。

県外大会

県連主催大会

*全日本女子弓道東日本大会

2006・6・4
4位 荻野谷綾子 水戸市

*第44回関東教職員弓道大会

2006・7・2
男子の部
女子の部

個人優勝 大金喜代子
大成女子高

個人優勝 大金喜代子
大成女子高

*第57回 全日本弓道

2006・10・28・29
女子2位 石井 和子

ひたちなか湊

*第25回 全国高等学校弓道選抜大会

2007・3・17・19
男子団体 技能優秀校

女子団体 優勝 石岡商業

男子個人 10位 東小園拓真

女子個人 10位 湯原 里未

女子個人 10位 牛久栄進高

春季大会

2006・4・30

▽団体の部

一位 能ヶ崎A

一位 関口孝久、桜井信一、

古田忠晃

二位 日製弓A

二位 新山晃一、井上大輔

伊東 尚

三位 石岡C

倉本禮子、尾料恵子、

中山三千男

▽個人男子の部

一位 島田 一也 高萩

二位 尾吹 特大 茨城町

三位 石田 昌嗣 神栖

▽個人女子の部

一位 大高 綾 桐弓会

二位 鈴木 博子 土浦龟城

三位 尾料 恵子 石岡市

▽称号受有者の部

一位 石井 和子 ひたちなか湊

二位 倉澤 久 水戸市

三位 塚田 哲也 北総

・優秀賞 団体の部

第一射場 能ヶ崎A

関口孝久、桜井信一、

古田忠晃

土浦龟城C

第二射場 河合 徹 辻高宏

後藤裕一

・優秀賞 男子個人の部

第一射場 柴崎 則史 土浦龟城

第二射場 河合 徹 土浦龟城

・優秀賞 女子個人の部

第一射場 鬼木 泰江 土浦龟城

第二射場 尾料 恵子 石岡

▽選手権大会(称号者の部)

2006・5・21

一位 荻野谷綾子 水戸市

二位 高橋 輝子 北総

三位 圓城寺賢一 水戸桜川

最高得点 明間 勲 取手

▽選手権大会(有段者の部)

2006・6・4

▽三段以下の部

一位 芦田 佑果 桐弓会

二位 越川 真人 下館

三位 福見 道也 波崎

▽四段・五段の部

一位 山田 浩子 藤代

二位 池田 秀臣 桐弓会

三位 高野 敬光 玉造

・優秀賞

初段以下 廣瀬梨重子 下館

二段 鈴木 博子 土浦龟城

三段 越川 道也 波崎

四段 山田 浩子 藤代

五段 池田 秀臣 桐弓会

県民総体(兼)団体選手選考会

2006・6・18

▽成年男子の部

・三段以下の部

一位 福井 光仁 日立中央

二位 大熊 一夫 笠間

三位 嶋田 和希 桐弓会

・四段以上の部

一位 菊地 俊和 藤代

二位 後藤 裕一 土浦龟城

三位 杉山 義光 航空自衛隊

▽成年女子の部

・三段以下の部

一位 大高 綾 桐弓会

二位 仲村 美香 桐弓会

三位 芦田 佑果 桐弓会

▽四段以上の部

一位 柴田 隆子 水戸桜川

二位 祖父江惠美 神栖

三位 沖田 紀子 牛久

▽称号受有者の部

一位 石井 誠 ひたちなか湊

二位 高橋 義之 茨城

三位 高橋 輝子 北総

▽速射大会(兼)全日本速射選手権予選

2006・7・9

▽男子・四段以下の部

一位 菊地 俊和 藤代

二位 石田 昌嗣 神栖

三位 平根 伸彦 原研機構

▽男子五段以上の部

一位 石井 誠 ひたちなか湊

二位 森 昭夫 石岡

三位 池田 秀臣 桐弓会

▽女子四段以下の部

一位 磯山 博生 桐弓会

二位 山田 浩子 藤代

三位 仲村 美香 桐弓会

▽女子五段以上の部

一位 石井 和子 ひたちなか湊

二位 祖父江惠美 神栖

三位 小島 幸子 水戸市

▽青年大会

2006・8・20

一位 土浦市 星喜進(監督)

中座由行、植田徹也

海老原和典

一位 水戸市 白石直之(監督)

松崎稔昌、福水鉄平

小出則行

三位 筑西市 飯泉清(監督)

福見真人、鈴木宏典

若下智明

三位 能ヶ崎市 奥山邦夫(監督)

吉田忠晃、小林美貴

代、北野高志

▽第30回中野林記念弓道大会

2006・9・24

▽一般男子の部

一位 岩下 智明 下館

二位 鈴木正太郎 下館

三位 池田 秀臣 桐弓会



▼一般女子の部

- 一位 磯山 博生 桐弓会
 - 二位 木村 恵美 神栖
 - 三位 大高 綾 桐弓会
- ▼称号受有者の部
- 一位 間間 勲 取手
 - 二位 石井 誠 ひたちなか湊
 - 三位 柴田 隆子 水戸桜川

ねりんピック茨城
2007リハール大会

- 2006・10・15
- 優勝 ひたちなか湊A
準優勝 藤代A
- 三位 水戸桜川B
 - 三位 土浦A

段位別大会

2006・10・22

- ▼二段以下の部
- 一位 北野 高志 竜ヶ崎
 - 二位 床嶋 純孝 東海
 - 三位 平根 伸彦 原研機構
- ▼三段の部
- 一位 嶋田 和希 桐弓会
 - 二位 明村 範彦 高萩
 - 三位 青柳 優 桐弓会
- ▼四段の部
- 一位 海老原和典 土浦
 - 二位 松崎 稔昌 水戸桜川
 - 三位 尾吹 将大 茨城町
- ▼五段の部
- 一位 後藤 裕一 土浦亀城

二位 池田 秀臣 桐弓会

- 三位 鎌塚 政嗣 北総
- ▼称号受有者の部
- 一位 圓城寺賢一 水戸桜川
 - 二位 塚田 哲也 北総
 - 三位 関島 勝 東海
- ★優秀賞
- 一位以下の部 黒坑 正吉 神栖
 - 三段の部 奥山 郁夫 竜ヶ崎
 - 四段の部 山田 浩子 藤代
 - 五段の部 後藤 裕一 土浦亀城

支部対抗戦

2006・10・29

- 一位 波崎 越川道也、諸橋昭
- 二位 小沼勝則 土浦亀城A
- 三位 栗崎武志、辻高宏
- 後藤裕一
- 三位 玉造町 斉藤勝美、佐藤至學
- 高野敬光
- 三位 茨城町 尾吹将大、杉山泉
高橋義之

武道フェスティバル(中学生)

2006・11・19

- ▼男子の部
- 一位 藤枝 直人 内原中
 - 二位 岡野 陽平 城ノ内中
 - 三位 八木 宏平 竹葉中

▼女子の部

- 一位 佐藤 美和 稲田中
 - 二位 島田 里美 朝日中
 - 三位 鴻泉 葉紀 城ノ内中
- 2007・1・14
- ▼三段以下の部
- 奥山 郁夫 竜ヶ崎
- ▼四・五段の部
- 小林 幹夫 水戸桜川
- ▼称号受有者の部
- 池田 秀臣 桐弓会
 - 奥山 郁夫 竜ヶ崎

新春射会

2007・1・14

- ▼総合優勝
- 奥山 郁夫 竜ヶ崎
- ▼団体戦
- 優勝 紅組 中率 34.7%
 - 準優勝 白組 中率 33.9%

全日本勤労者

弓道選手権大会県予選会

2007・3・11

- ▼団体の部
- 一位 日立製作所A 竹之内正宏、郡司武満
 - 二位 日立製作所C 新山晃一、川畑有紀子、熊谷俊秀
- ▼個人の部
- 一位 熊谷 俊秀 日立製作所
 - 二位 寺本 貞光 三菱化学

その他県内大会

- 三位 石井 誠 日立製作所

第35回村松山弓道大会

2006・4・2

- ▼スポート少年団(五色)で採点的
- 一位 澤富 愛
 - 二位 千賀 樹
 - 三位 小松 誠

▼中学生の部

- 一位 清水 拓人 東海南中
 - 二位 小林 勇貴 城の内中
 - 三位 須藤かなみ 東海中
- ▼高校一般の部
- 一位 小野瀬慎吾 大宮高
 - 二位 米川祐太郎 佐和高
 - 三位 清洲 祥子 水戸一高
- ★射詰賞
- 清洲 祥子 水戸一高

土浦桜まつり弓道大会

2006・4・15/2

- ▼中学の部
- 一位 岡田友香里 阿見中
 - 二位 鈴木沙季子 阿見中
 - 三位 中島 進一 竹葉中
- ▼高校男子の部
- 一位 石本裕一郎 石岡商
 - 二位 高橋 祐太 土浦一
 - 三位 富田 光貴 竹園
- ▼高校女子の部
- 一位 板倉 彩乃 東洋大牛久

- 二位 中田 仁美 東洋大牛久
 - 三位 仁平智代美 水海道一
- ▼一般の部
- 一位 小堀 富男 鹿嶋
 - 二位 幕内 雄基 石岡
 - 三位 後藤 裕一 土浦亀城
- ▼射詰賞
- 辻 尚弘 土浦亀城

▼一般団体

- 一位 鹿嶋A 小堀富男、佐藤三男
 - 二位 望月泰夫 土浦亀城A
 - 三位 栗崎武志、辻高弘 後藤裕一
- 二位 波崎A 小沼勝則、越川道也
- 平須実功

▼高校男子団体優勝

石岡商A

▼高校女子団体優勝

石岡一C

第16回山ざくら弓道大会

2006・4・9

- ▼射詰優勝
- 郡司 武満 茨城町
- ▼射詰準優勝
- 禁田 勝利 牛久
- ▼金的
- 一位 橋本 國治 東海村
 - 二位 山城 芳美 牛久
 - 三位 望月 泰夫 神栖

- ▼一般の部
一位 海老原和典 土浦
二位 尾吹 将大 茨城町
三位 大瀬良健蔵 神栖

鹿島補宮弓道大会

2006・4・29

▼高校の部

- 射詰優勝 石木裕一郎 石岡商
敢闘賞 高柳 美咲 鉢田一
射込優勝 小暮 祐介 藤代高
射込二位 中根奈津美 石岡商
射込三位 砂田 高宏 土浦工
団体優勝 石岡商Aチーム
中村真由美、久松優
中根奈津美

▼一般の部

- 射詰優勝 伊藤 港 筑波
敢闘賞 海老原和典 土浦
射込優勝 伊藤 港 筑波
射込二位 小暮 祐介 鹿嶋
射込三位 矢野間 清 鹿谷
団体優勝 筑波Cチーム
伊藤港、杉浦拓郎
川中子裕美

第27回神栖弓道大会

2006・5・14

▼高校の部

- 射詰優勝 砂田 高宏 土浦工
射詰準優勝 立原 有夏 清真学園
射込優勝 立原 有夏 清真学園
射込準優勝 宮城 昂平 土浦工

- 射込第三位 瀬戸沢清孝 土浦工
・団体優勝
清真学園
池田真弓、小野瀬紗央
木下絵美

▼一般の部

- 射詰優勝 小沼 勝則 波崎
射詰準優勝 諸橋 昭 波崎
射込優勝 石田 昌嗣 神栖市
射込準優勝 海老原和典 土浦市
射込第三位 荻原 裕一 美野里
・団体優勝
波崎
越川道也、平須賀功、諸橋昭

県教職員春季弓道大会

2006・5・20

▼男子の部

- 一位 唐澤 章 江戸崎総合高
二位 根本 純一 那珂湊一高
三位 小林 幹夫 常磐小学校
・団体優勝
大川郡志子 那珂湊一高
二位 大金喜代子 大成女子高
三位 高野 順子 OB

麻生杯弓道大会

2006・5・21

▼高校の部

- 射詰優勝 城山 一秀 藤代
・射込
一位 本多真佑美 石岡商

- 二位 城山 一秀 藤代
三位 中根奈津美 石岡商
・団体優勝
石岡商
薄田和紀、石木裕一郎
中沢涼太

・金の賞

- 菊地 祐太 藤代
砂田 高宏 土浦工

▼一般の部

- 射詰優勝 川中子裕美 筑波大
射込
一位 杉浦 拓郎 筑波大
二位 鈴木 辰矢 土浦工
三位 谷山 豪祐 土浦亀城
・団体優勝
土浦工
幕内雄基、鈴木辰矢
柴弥寿子

・金の賞

- 永作 富男 麻生
川中子裕美 筑波大

ねりんピック予選

2006・5・26

- 一位 根本 信哉 日製日立
二位 岡野 良雄 土浦
三位 山口 皓司 友部

第55回あやめ祭弓道大会

2006・6・11

▼高校の部

- 優勝 後藤 正志 清真学園
射詰の部
射込の部
一位 菅原高太郎 常総学院
二位 鬼沢 佑人 鹿島
三位 石津 直輝 清真学園
・団体優勝
清真学園A
日下部賢吾、石津直輝
後藤正志

・花の賞

- 内野 竜也 鹿島
貝塚 惇観 常総学院
・射詰の部
優勝 小堀 富男 鹿嶋
射込の部
一位 金子 昌嗣 神栖
二位 金子 真之 長生香取支部
三位 藤代知恵子 波崎
・団体優勝
長生、香取A

・花の賞

- 田辺美江
鈴木 猛 麻生
佐藤 三男 鹿嶋

第28回茨城県女子弓道大会

2006・09・30

▼射詰の部

- 優勝 水戸Aチーム
小島幸子、萩野谷綾子
市毛道子
二位 神栖Aチーム
木村恵美、黒澤智子
梶直子
三位 阿見混合チーム
石島凡子、和田京子
二位 土浦Bチーム
斎藤ミユキ、稲石京子
飯田悦子

▼個人

- 優勝 萩野谷綾子 水戸市
二位 柴原一利子 水戸市
三位 海老根芳江 ひたちなか

第50回行方産業文化祭弓道大会

2006・11・04

▼射詰の部

- 木暮 祐介 藤代
郡司 武満 茨城町

▼高校の部

- 射詰の部
一位 中村真由美 石岡商

中体連大会

茨城県中学校総合体育大会
弓道競技の部
2006・7・27

男子個人

- 一位 龍ヶ崎愛宕中
- 坂巻大 松本拓朗
- 鈴木飛鳥
- 清真学園中
- 東海中
- 石津、後藤
- 川上、松本、鈴木

男子個人

- 一位 坂巻 大 愛宕
- 二位 三瓶 弘宣 城ノ内
- 三位 後藤 正志 清真

女子個人

- 一位 城ノ内中
- 前橋かおり、木村沙伎
- 大橋和
- 東海中
- 照沼、日高 飯岡
- 稲田中
- 小林、石塚、田村

女子個人

- 一位 石川 智絵 水戸二
- 二位 砂押 早織 東海
- 三位 大屋 和 城ノ内

観梅弓道大会

2007・3・21

高校男子の部

- 一位 木内 純一 佐和
- 二位 菅谷一皓 土浦三
- 三位 米川祐太郎 佐和

高校女子の部

- 一位 小池 真湖 大宮
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 菊地 仁那 龍ヶ崎一

一般男子の部

- 一位 江畑 博通 内原
- 二位 菊地 俊和 藤代
- 三位 来栖 茂 土浦

一般女子の部

- 一位 中井川美枝子
- ひたちなか勝田
- 柴原一利子 水戸桜川
- 渡邊 一世 宇都宮

男子個人

- 一位 荒井拓実、千葉智美
- 里村みほ子
- 竹内 海人 守谷
- 中澤 亮平 下館一
- 植竹 修平 つくば秀英
- 小嶋 里紗 下館二
- 菊地 依里 結城二
- 前田 円花 藤代

一般の部

- 一位 飯泉 清 下館
- 二位 小野田文雄 下館
- 三位 高野 敬光 玉造
- 称号者の部
- 一位 庄司 幸夫 下館
- 二位 青澤 靖 北総
- 三位 郡司 武満 茨城町

技能優秀

- 土浦工A
- 荒井拓実
- 小嶋里紗
- 高野敬光
- 玉造

有段者の部

- 一位 飯泉 清 下館
- 二位 小野田文雄 下館
- 三位 高野 敬光 玉造

称号者の部

- 一位 庄司 幸夫 下館
- 二位 青澤 靖 北総
- 三位 郡司 武満 茨城町

技能優秀

- 土浦工A
- 荒井拓実
- 小嶋里紗
- 高野敬光
- 玉造

有段者の部

- 一位 飯泉 清 下館
- 二位 小野田文雄 下館
- 三位 高野 敬光 玉造

男子個人

- 一位 清水沙耶香 土浦二
- 一位 薄田 和紀 石岡商
- 二位 小暮 祐介 藤代
- 三位 名久井 理 土浦工

一般三段以下の部

- 一位 大貫 勇 藤代
- 二位 柴崎 昇一 土浦工
- 三位 叶川 武人 藤代

一般四段以上の部

- 一位 山崎 芳美 取手
- 二位 幕内 雄基 土浦工
- 三位 菊地 俊和 藤代

男子個人

- 一位 後藤 裕一 玉造工業高
- 二位 高橋 義之 O B
- 三位 矢部 克美 小瀬高

女子個人

- 一位 大金喜代子 大成女子高
- 二位 大川都志子 那珂湊一高
- 三位 高野 順子 O B

茨城県教職員秋季弓道大会

2006・12・3

男子の部

- 一位 後藤 裕一 玉造工業高
- 二位 高橋 義之 O B
- 三位 矢部 克美 小瀬高

女子の部

- 一位 大金喜代子 大成女子高
- 二位 大川都志子 那珂湊一高
- 三位 高野 順子 O B

優勝

- 下館一A
- 野口淳、中澤亮平
- 渡辺明矩
- 土浦工A
- 名久井理、瀬古沢清孝

高校男子の部

- 一位 薄田 和紀 石岡商
- 二位 小暮 祐介 藤代
- 三位 名久井 理 土浦工

一般三段以下の部

- 一位 大貫 勇 藤代
- 二位 柴崎 昇一 土浦工
- 三位 叶川 武人 藤代

県南大会

2006・11・19

高校女子の部

- 一位 中根奈津美 石岡商
- 二位 沼野 智恵 土浦二

- 二位 井上 雄貴 石岡商
- 三位 柏木 政宏 石岡商

一般の部

- 一位 菊地 俊和 藤代
- 二位 石井 誠 ひたちなか湊
- 三位 渋谷 龍太 筑波大

★団体優勝

- 土浦工A
- 高野将志、名久井理
- 瀬古沢清孝

一般の部

- 一位 山崎 芳美 取手
- 二位 幕内 雄基 土浦工
- 三位 菊地 俊和 藤代

茨城町A

- 尾吹将大、高橋義之
- 郡司武満

金の賞

- 木暮 祐介 藤代
- 後藤 正志 清真学園

一般の部

- 来栖 茂 土浦
- 海老原和典 土浦

50位賞

- 梅津 里香 神栖
- 樺畑 清 藤代

一般の部

- 一位 中根奈津美 石岡商
- 二位 沼野 智恵 土浦二

第30回中野林優勝旗争奪弓道大会(中学生の部)
2006・8・1

高体連大会

▼男子団体

- 一位 能ヶ崎愛宕中
- 坂巻大、糸賀弥陸
- 二位 浅野貴憲
- 羽石、平根、柳橋
- 三位 茨城中
- 清真学園中
- 日下部、石津、後藤
- 城西中
- 唐鎌、杉野、石井

▼男子個人

- 一位 本橋 将弘 城ノ内
- 二位 清水 寛将 土浦一
- 三位 浅野 貴憲 愛宕

▼女子団体

- 一位 城ノ内中
- 前橋かおり、木村沙伎
- 二位 大屋和
- 山田、龟川、谷田部
- 三位 東海中
- 松浦、小野寺、浜野
- 三位 清真学園
- 野口、河上、八幡

▼女子個人

- 一位 石岡 一
- 二位 藤代
- 三位 下妻一

▼男子個人

- 一位 小暮 祐介 藤代
- 二位 石井 俊之 湊一
- 三位 後藤 裕 水戸一

▼女子個人

- 一位 保田 友美 石岡商
- 二位 村田 麻里 三和
- 三位 秋葉花水美 八千代

▼男子個人

- 一位 石岡商
- 薄田、石本、中澤
- 二位 土浦三
- 小川、中川、菅谷
- 三位 大宮
- 小野瀬、小野瀬、嶋志田

▼女子個人

- 一位 栗野 一希 下妻一
- 二位 原田 泰典 石岡一
- 三位 野口 淳 下館一

▼男子個人

- 一位 石岡商
- 中村、本多、中根
- 二位 日立商
- 宇野、鈴木、京谷

▼女子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

▼男子個人

- 一位 石本裕一郎 石岡商
- 二位 藤田 拓樹 水城
- 三位 谷内 結哉 下妻一

▼女子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

▼男子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

▼女子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

春季大会兼関東大会県予選会
2006・05・12・13

▼男子団体

- 一位 石岡一B
- 二位 藤代
- 三位 下妻一

▼女子団体

- 一位 八千代A
- 二位 清真学園
- 三位 日立商A

▼男子個人

- 一位 保田 友美 石岡商
- 二位 村田 麻里 三和
- 三位 秋葉花水美 八千代

▼女子個人

- 一位 柳 美咲 鉦田一
- 二位 池田 真弓 清真
- 三位 木下 絵美 清真

▼男子個人

- 一位 土浦工
- 二位 水戸一
- 三位 下妻一

▼女子個人

- 一位 石岡商
- 二位 日立商
- 三位 土浦二

▼男子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

▼女子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

茨城県高等学校弓道秋季大会兼第30回中野林優勝旗記念弓道大会
2006・9・23

▼男子個人

- 一位 平野 啓太 土浦工
- 二位 山 大輔 土浦三
- 三位 嶋志田 聡 大宮

▼女子個人

- 一位 東京農大三高A(埼玉)
- 二位 土浦三A
- 三位 土浦工A

▼男子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

▼女子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

冬季大会(柴田杯)
2007・2・12

▼男子個人

- 一位 東京農大三高A(埼玉)
- 二位 土浦三A
- 三位 土浦工A

▼女子個人

- 一位 石岡商
- 二位 中根奈津美 石岡商
- 三位 京谷 結花 日立商

H18年度 県外審査関係(錬士以上合格者)

[範士]	久保田 清	藤代	推薦	2006.05.25
[錬士]	坪井 恒雄	新利根	推薦	2006.05.25
	尾科 恵子	石岡	仙台	2006.07.09
	柴田 隆子	水戸桜川	仙台	2006.07.09
	君島 洋子	取手	埼玉	2006.10.14
	根本 利江	東海村	埼玉	2006.10.14
	後藤 裕一	土浦亀城	埼玉	2006.10.14
	池田 秀臣	桐弓会	静岡	2006.11.26
	中山 瑞穂	石岡	東京	2006.12.24
	丸 けい子	美野里町	東京	2006.12.24
	竹之内正宏	日製日立	東京	2006.12.24
[六段]	村上 美保	友部	仙台	2006.07.07
	檜森 宏次	日立化成	埼玉	2006.10.15
	柴田 隆子	水戸桜川	埼玉	2006.10.15
	中嶋 鉄郎	境町	東京	2006.11.04
	吉澤 靖	三和	東京	2006.11.04



県外講習会 参加者

	関東地区北部指導者	関東女子	中央研修会	指導力・競技力	地連幹部指導者
18年度	海老根 庄司 関 木村 山村	高橋 萩沼 萩野谷 安藤(明) 小室	市毛	山村	張替 白石 木村
	6月3~4日	7月1~2日	10月6~8日	H19年2月3~4日	H19年3月3~4日

県内講習会 講師

月 日	講習会	主任講師	講 師
4月 9日	講師、審査員	柴田	久保田
4月23日	称号者	柴田	天 明間 市毛
5月 7日	三、四段	白石	安藤(延) 萩沼 山村 佐野
5月14日	五段	市毛	宮崎 高橋(輝) 塚田 萩野谷
7月23日	支部指導者	木村	関 海老根 萩沼
8月25日	教職員	柴田	白石
9月10日	三、四段	張替	関 海老根 丸山 安藤(明)
10月 7日	称号者	柴田	
10月 9日	五段	明間	市毛 木村 清水 塩津
2月25日	三、四段	白石	川瀬 柴原 小室

編集後記

「弓道いばらき」二十九号の編集を終え、無事発行することができ、会長先生はじめ、皆様方のご協力に感謝申し上げます。

今号は、久保田先生の範士昇格そして、全国高等学校弓道選抜大会石岡商業女子団体・男子技能優秀賞というすばらしいニュースを、掲載することが出来ました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

広報部では、「弓道いばらき」紙面と共にホームページの充実を図って参りました。大会、審査等の後日には、アクセス数がグリーンと伸びることを踏まえ、速報化に担当方々努力を致しておりご理解の程、宜しくお願いいたします。

また、各地域の楽しい行事や話題などありましたらぜひ地域の広報部員、あるいは部長までお知らせ下さい。なお写真など添えていただければ幸いです。

出来る限り会員のみならずと密着した紙面作りをしたいと願っております。

中井川美枝子

広報部員

広報部長 宮崎 康美
副部長 小野崎 紀男
副部長 川又 正昭

高橋 輝子 廣水 千加代
中井川 一郎 中井川 美枝子
星 喜進 安部 容子
立川 久泰 市毛 克哉
増田 英一 山口 裕利
稲葉 健次郎 佐川 裕子
小林 恵美子 久本 宣子
岡田 耕一郎 江幡 恵一
萩野谷 綾子

○御冥福をお祈り致します。

秋本喜夫殿 三〇段 五十六歳 平成十八年 四月 六日
倉田博夫殿 教士六段 九十六歳 平成十八年 五月 二日
鈴木喜久乃殿 四段 六十五歳 平成十八年六月二十七日
岩井昇卓殿 錬士六段 八十一歳 平成十八年 八月 六日
磯 静波殿 錬士五段 九十四歳 平成十八年十一月三十日
五来 清殿 錬士六段 九十四歳 平成十九年一月二十四日